



平成30年12月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	67,354,263 万円	100.0%	99.8% (99.5%)	65,198,469 万円	98.6% (98.2%)
食 料 品	56,959,536 万円	84.6% (84.5%)	100.0% (100.0%)	55,109,511 万円	98.6% (98.6%)
農 産	8,072,062 万円	12.0% (12.5%)	95.4% (101.2%)	7,790,820 万円	94.2% (99.8%)
水 産	5,912,535 万円	8.8% (7.6%)	100.4% (99.0%)	5,730,058 万円	99.1% (97.6%)
畜 産	7,334,538 万円	10.9% (11.2%)	100.5% (98.1%)	7,093,634 万円	99.0% (96.6%)
惣 菜	6,561,988 万円	9.7% (9.7%)	101.6% (102.3%)	6,325,070 万円	99.9% (100.5%)
日配食品	12,325,443 万円	18.3% (19.0%)	100.2% (99.6%)	11,922,171 万円	98.8% (98.2%)
加工食品	16,752,971 万円	24.9% (24.5%)	101.1% (100.0%)	16,247,758 万円	99.9% (98.7%)
生活関連	4,271,090 万円	6.3% (6.3%)	98.7% (97.7%)	4,138,679 万円	98.3% (97.2%)
衣 料 品	1,916,558 万円	2.8% (3.2%)	96.2% (93.0%)	1,881,182 万円	96.3% (93.5%)
そ の 他	4,207,079 万円	6.2% (6.0%)	100.8% (98.5%)	4,069,097 万円	99.2% (97.4%)

② 数 値

全店総売上高	67,354,263 万円	店舗数	4,808 店舗
総売場面積	9,641,434.7 m ²	総従業員数	251,062 人

店舗平均月商	14,008.8 万円	平均客単価	2,109.0円 (101.5%)
月間m ² 売上(前月)	7.0 万円 (5.7万円)	平均店舗面積	2,005.3 m ²
月間坪売上(前月)	23.1 万円 (19.0万円)	パート比率(前月)	77.3% (76.9%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 12月の天候について、平均気温は全国的に概ね前年より高かった。日照時間は、北日本の日本海側と東日本の太平洋側および西日本において、気圧の谷の影響を受けやすく、かなり少なかった。
- ・ 生鮮品の相場状況について、青果では、「キャベツ」や「白菜」「大根」といった大型野菜を中心に安値が続いた。水産物は、入荷量が前年と比べ減少し、卸売平均価格は高値で推移した。畜産物では和牛が概ね前年並みで推移、国産の豚肉と鶏肉の「むね肉」が安値で推移した
- ・ 前年同月と比較して月曜日が1回多く、金曜日が1回少ない曜日廻りで、土・日・祝日の休日日数が、1日多かった

《 商品動向 》

・ 農 産

- ・ 野菜は、前年比で大幅な相場安の展開となり、商品単価下落の要因となった。特に「キャベツ」、「白菜」「大根」などの大型野菜の不調が顕著
- ・ 月を通じて前年より高い気温で推移し、鍋材料は不振を極めた
- ・ 一方、「ミニトマト」「ブロッコリー」などのサラダ野菜は好調となったほか、テレビ番組で紹介された影響による「舞茸」の特需が引き続きみられた
- ・ 果物類は概ね好調となっており、国産果実では「いちご」「みかん」、輸入果実では「キウイフルーツ」「ぶどう」が好調とするコメントが多かった

・ 水 産

- ・ 刺身などの生食関連が好調となった。特に「刺身盛り合わせ」「まぐろ」の動きが良く、需要期の年末においても好調を維持した
- ・ 一方、「タラ」や「牡蠣」などの鍋物商材は気温環境により不調となった
- ・ 「えび」が概ね好調となった一方、「かに」は好不調が分かれる結果となった

・ 畜 産

- ・ 「牛肉」は、ステーキや焼肉用が売上を伸ばし概ね好調であった一方、「鶏肉」が不調、「豚肉」は好不調が分かれる結果となった
- ・ 気温環境により、各畜種ともに鍋物商材の動きが悪かった

・ 惣 菜

- ・ 月初より、クリスマスの需要期へ向けたチキン商材の取り組みを強化する事例が多くみられ、成果をあげている
- ・ 高い気温の影響を受け麺関連の動きが悪かった

- ・ 日配・加工食品

- ・ テレビ番組で紹介された影響により「甘酒」に特需がみられたほか、「納豆」も好調を維持している
- ・ 気温環境により「豆腐」「チルド麺」「鍋つゆ」などの鍋物・ホット商材が不調となった
- ・ 「機能性ヨーグルト」を中心にデザートが不調となった
- ・ 加工食品は、「飲料」がやや好調となった一方で、「切り餅」は好不調が分かれる結果となった
- ・ 酒は、「ウイスキー」「チューハイ」が好調となった一方で、「ビール類」「清酒」の動きが悪かった

- ・ お歳暮、クリスマスケーキ・おせちなどの予約販売の状況について

- ・ お歳暮は、菓子ギフトの動きが良かったものの、全体としては贈答需要の縮小もあり、売上は減少傾向である
- ・ 配送コストの上昇により、一部に無料配送や売価設定の見直しの動きがみられた
- ・ クリスマスケーキの予約販売は前年を下回る結果が多かった
- ・ おせちの予約販売は手作りからのシフトもあり、概ね好調であった

- ・ クリスマスの状況について

- ・ クリスマスは、曜日廻りの影響もあり売上は全体的に伸び悩んだ
- ・ クリスマスケーキは、予約販売、当日販売ともに苦戦したほか、手作りケーキ材料も不調となった
- ・ 「ローストチキン」や「フライドチキン」など、総菜のチキン商材は好調となった一方、手作り用途の畜産の「骨付きもも肉」は不調とのコメントが多かった
- ・ 「クリスマスブーツ菓子」は、販売が縮小傾向にあるものの、前年売上を上回ったとのコメントが多かった

- ・ 年末マーケットの状況について

- ・ ごちそうメニューは、「寿司」「刺身」「ローストビーフ」など即食ニーズの商品が好調であった
- ・ 「寿司」は上質なネタを使用するなど高付加価値商品を訴求し、成功している企業が多かった
- ・ おせちの手作り用途の素材や材料の動きが悪く、販売の減少傾向が伺える
- ・ その他では、「お供え餅」「しめ縄」などのお正月飾り用品が不調とのコメントが多かった

以 上